

ヤマシャクヤク *Paeonia japonica* (Makino) Miyabe et Takeda

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 12。花が大きく、保全の必要性が高い植物で、園芸目的の採取により激減している。

【形態】

多年生草本。高さ 30~40cm になる。根茎は横にのび、太い根を出す。茎には 3~4 枚の茎葉を互生し、基部には数枚の鱗片葉がある。葉は 2 回 3 出複葉、小葉は楕円形~倒卵形、先は狭まってとがり、裏面は白色を帯びる。花期は 5 月、花は茎の先端に 1 個つき、直径 4~5cm で上を向いて開き、がく片は緑色、花弁は 5~7 枚で倒卵形、白色で互いに重なり合っつく。めしべの花柱は短く、少し外側に曲がる。袋果は長楕円形、開出し、長さ 2~3.3cm である。葉裏は通常無毛であるが、時に毛があるものがあり、ケヤマシャクヤク form. *hirsuta* H.Hara と呼ばれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（芹沢 81452, 2007-6-2）、4 津具（芹沢 78734, 2003-8-23）、8 鳳来北東部（小林 65987, 1999-5-1）。西：5 稲武（鈴木 学 1016, 1983-5-15）、19 旭（小林 56515, 1995-5-3）。個体数は少ない。

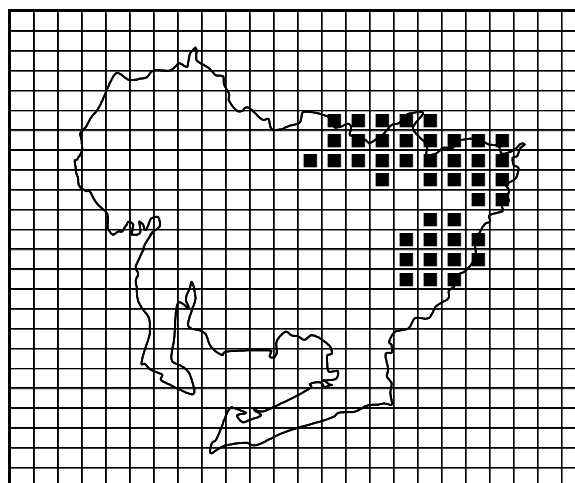
【国内の分布】

北海道（南部）、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の、主として落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

もともとあまり多くない上に、園芸目的の採取により減少している。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

本書のヤマシャクヤクは、ケヤマシャクヤクを含むものである。全国的にはシカ食害の激化に伴って不嗜好植物である本種が一時的に増加する事例もあるが、愛知県では現在のところ顕著な増加傾向は認められない。

【関連文献】

保草Ⅱ p.217, 平草Ⅱ p.111, 平新版 2 p.181, SOS 新版 p.18,20.